



## 農業活動での汗を感動へ ～実習による成就感と達成感～

### ■マーケティングを学ぶ（システム園芸科）

1月26日（月）、2月6日（金）、キャリアビジョン育成事業の一環として、山梨学院大学の粘逸彦先生を講師にお招きし、システム園芸科1年生を対象としたマーケティング講座を開催しました。「商品とはどのようなもの？消費者のニーズにはどのようなものがあるか？買い物の動機って何だろう？“売れる商品”を作るための消費者の分類とは？」など、農業経営の授業で学んだマーケティングの発展的な学習をしました。生徒たちはお互いの意見を出し合いグループワークを行いました。この講座で学んだことを来年度、販売実習等で生かしていきたいと思えます。



### ■演習林実習で山を感じる（森林科学科）

森林科学科は、三富演習林、南アルプス演習林、御岳演習林の3つの演習林で実習を行います。日々の座学では森林の機能や造林方法、木材の性質について学びます。演習林実習では、座学で得た知識をもとに山を歩き、体感する学習の機会としています。山の歩き方や木々の様子、沢の様子、におい、動物の痕跡など、五感で山を感じ取ります。

1年生は三富演習林にて実習を行いました。山の入り口は針葉樹と広葉樹の混ざった様子で、登るにつれて30～40年生のヒノキ人工林となります。山の中で動物の痕跡も見られました。「疲れたが、楽しかった」と生徒から聞こえました。今年度、森林科学科2年生が南アルプス演習林、3年生が御岳演習林での実習を実施しました。



### ■総合実習 ワサビ田の製作（環境土木科）

3年生の課題研究・総合実習は、各班のプロジェクト学習がまとめの段階に入っています。以前、農場通信で紹介した、ホンモロコの排水を利用したワサビ田の製作を目指すグループの活動を報告します。農業機械棟東側に位置する旧雨水枡を改良したワサビ田の作成を行いました。最初の作業は、鉄筋コンクリートで出来た蓋を破壊し、重機で枡の中を掘削し、新たに玉砂利を敷く作業です。並行して、排水を行うための水路の開発、給水施設の開発など様々な作業を行いました。慣れない作業も多く大変でしたが、苗を植えるところまで完成しました。来年度の新3年生が、立派なワサビを作ってくれることを期待しています。



## ■壁泉の排水を整備する（造園緑地科）

本校敷地内の黎明文化創造館の中庭には、平成元年の竣工時に建設された壁泉が設置されています。しかし、施工から37年経過する中で修繕が必要な箇所が見られました。今年度、農業クラブ全国大会を迎えるに合わせて、吐出バルブを修繕して水を張れるようになりましたが、排水槽が浸透式であったため長年の使用により機能不全を起こしていました。そこで、新たに排水口を設けることで常時、水を流入出来るよう施工しました。寒い中、実習を行うのは大変でしたが、排水口ができ壁泉が蘇りました。



## ■身延あけぼの大豆プロジェクト（食品科学科）

食品科学科では、「みのぶ農泊地域連携協議会」と連携し、地域の特産品や文化を活かし、地域経済の活性化を目指す活動をしています。身延山久遠寺には多くの参拝者が訪れますが、最近では日本文化に興味を持つインバウンドが増加しています。そこで、身延特産のあけぼの大豆を使用した菓子の開発を行い、国内外にあけぼの大豆を広めたいと試作を重ねました。そして、あけぼの大豆の大きさやきな粉に加工した際の香ばしさを活かした「えだまめときな粉の和風ビスコッティ」を完成させました。

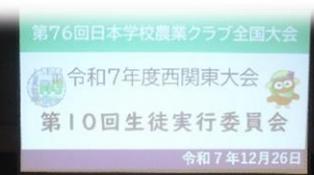
11月の収穫祭で販売し、多くの方に評価をいただきました。今後、商品化に向けて取り組むたいと考えています。



## ■農業クラブ全国大会を終えて（農業クラブ）

「農業系高校の甲子園」とも呼ばれる日本学校農業クラブ全国大会は、令和7年10月22・23日に開催されました。開催地の山梨県・東京都・神奈川県には、全国からクラブ員、引率者など約2,300名が訪れました。運営に関わった生徒、職員は約1,500名でした。

12月26日（金）、最後の生徒実行委員会が、こうふ亀屋座で開催されました。生徒実行委員長の丹澤さんは最後の挨拶で、「山梨県・東京都・神奈川県の子供達の皆さんの御協力に感謝します」と感謝の辞を述べていました。生徒実行委員には大会事務局長より感謝状が手渡されました。式の最後に解団式が行われ、2年間に渡る活動が終了しました。農業クラブ員の皆さん、お疲れ様でした。



生徒の活動はこちら

